

んが互いに担い合いながら果たしていかねばならない仕事の色々あります。共に荷を背負い、協力して困難を乗り越え、実が結んで喜びを分かち合う、そこに強い絆が生れる。そんな営みに日々挑戦している仲間がいます。

今日は、林神父様を囲み、互いに「担い合う」ことの意義とその難しさなど、それぞれの体験を語り合っていた。読者のみなさんの参考になりたい、そんな思いでお集まりいただきました。よろしくお願い致します。

先ずは、子どもたちの教育に長年携わって来られた信仰教育委員会の皆さんに、これまでの取組みについてお話しただきたいと思ひます。

日曜学校の運営

と侍者の育成

戸木(信仰教育委員長) 子どもが多くて忙しかった昔は、小河郁さんと佐藤ママ(往榮さん)と私の三人で50年くらいやってきました。でも今はあつちゃん(糸井貴子)あつ

こ)さん)が中心になって面倒をみて下さっていて、子どもたちは日々成長しています。子どもたちと一緒に走り回るのが私の喜び。これから何をすべきか難しいことは若い人にお任せです。今年も夏季合宿の実施(7月末の2日間)を承認していただき、子どもたちのお世話をするのがとても楽しみです。子どもたちと一緒に走り回る、それが私の喜び。80歳に見えないでしよ。

座談会「担い合う」教会を目指して



糸井戸木さんは子どもたちのために、ほんとにこまめに動いてくださっています。佐藤ママは91歳で、今もご老体に鞭打って子供たちのリーダーを務めて下さっています。

島内(光春) 香里教会では日曜学校も侍者の育成も、昔からよくやって来られた。その昔「鍊成会」というのがあり、子どもと大人と神父様も交えて勉強会をやった。香里教会には昔から歳をとっても労苦を厭わず自発的に働く人がおられる。高齢になっても繋が

りが保たれる。今、委員会制度になったがここまでやってくれる人は少ないのでは。

糸井 かつてわたしたちが子供の頃、諏訪神父様の時代(45年ほど前)の日曜学校が楽しかったし、朗読についても教えていただきました。その後の松浦悟郎神父様ほか多くの方々のお世話になり、その恩返しをしたいと思っています。佐藤ママは91歳になられた今もご老体に鞭打って

子どもたちのリーダーをされています。いつも怪我の無いようにと念じています。

林神父 お話を聴いていて、まず感じたのは、日曜学校の先生のみなさんが、子供の頃から香里教会で育った方が多いということ。結婚や就職で離れていかれる方が多いのが普通だが、香里の方の多くはここを離れないで香里の地に根付かれて仕事を継続してやってくださっている。みなさんお互いに気心知れた関係にあって、その協力関係が引き

継がれている。素晴らしいことだと思ひました。

司会 戸木様のお話から、自ら進んで責任を担うこと、それも楽しんで担うことの素晴らしさに正直感動しました。見習いたいと思います。

教会は奉仕の場。

先輩に見習う。

島内 話は変わるが、毎朝5時頃から一人で教会の掃除をしておられる方がいる。雨が降ろうが風が吹こうが。八十三歳を超えた女性の方で、四十年以上も教会の掃除をされている。教会は奉仕の場だと思ひ。年齢関係なしで。立場はみな一緒のはず。

林神父 その方は毎朝のミサにも来ておられます。

島内 なかなかできることじやあない。昔は、今のようない委員会制度が無くて苦勞を厭わず働く人がいた。私自身教会に世話になっているからお返ししないと、思ひて他人がやらないようなことをやるよう努めている。どぶ掃除とかトイレの裏のパイプが詰まっていればそれを直すと

か。教会に世話になっているからお返ししなければいけません。ただそれだけの気持ちでやっている。

司会 今井さんはその昔、教会のすぐ近くにお母さんと住んでおられ、香里教会と縁の濃い方です。今は大阪市内から教会に通っておられます。信仰のあり方について一席お願い致します。

今井 十年程前にカトリックを含めて有名な宗教家が集まって世界宗教者会議が開かれました。長い討議の末に到達した結論は、宗教によって崇める対象は違ひても、皆「信じる心」を持つているということでした。自分の宗教を前面に出すのではなく、みんな「信じる心」を持った人たちだと思ひ、そこに共通するものがあることに気づいて互いに受け容れる気持ちが生まれる。宗教を自分の都合で前に出さないことが必要。近い将来には信じる心と感謝する心が信仰の二大柱になる時代が来ると思ひています。

